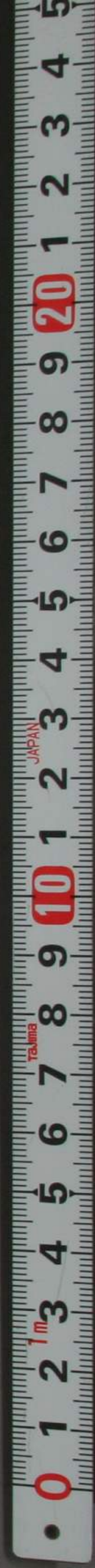


繪本通俗三國志

五編

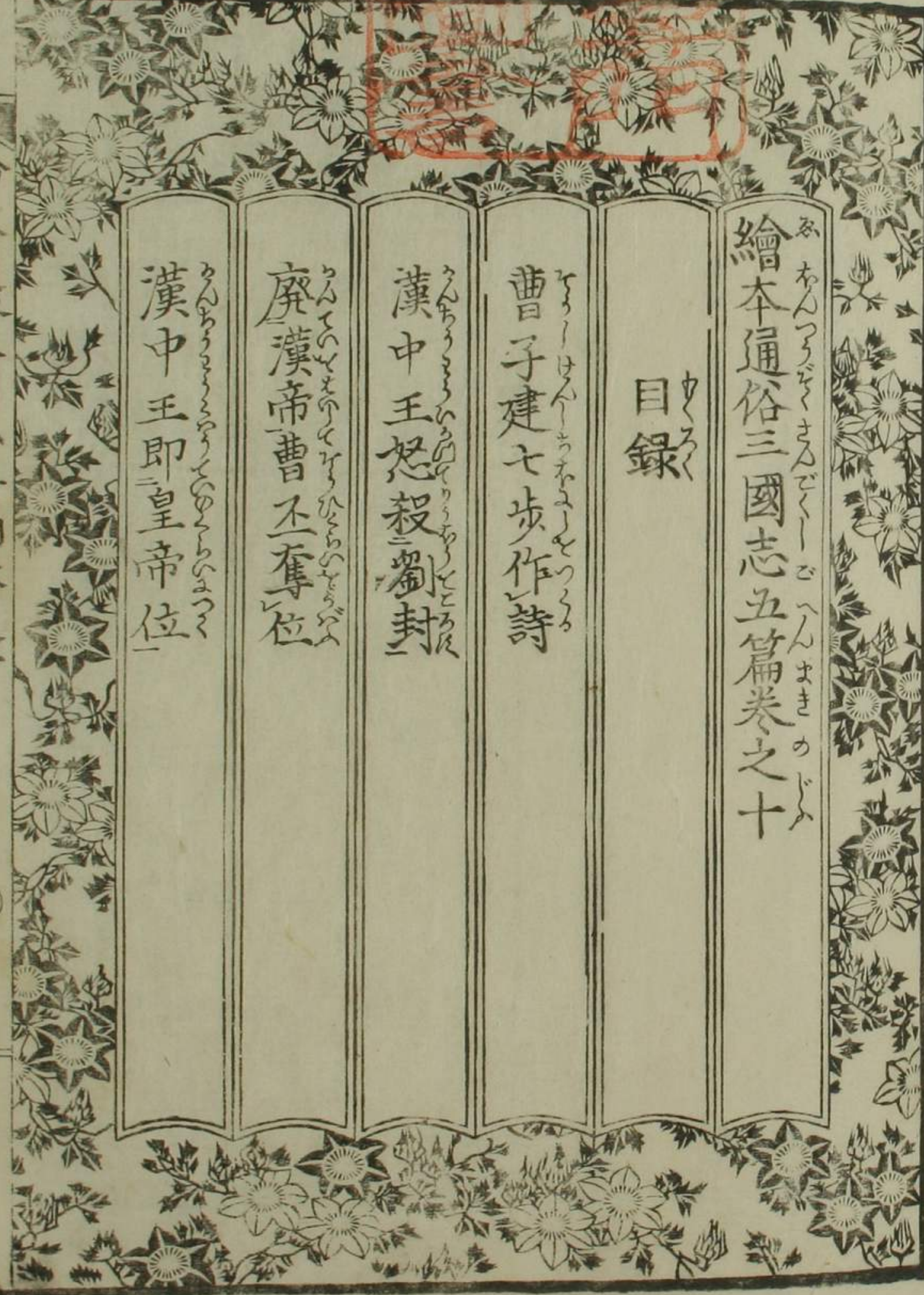
十

21
221
50



九
二二
五〇

東
漢
書



繪本通俗三國志五篇卷之十

目錄

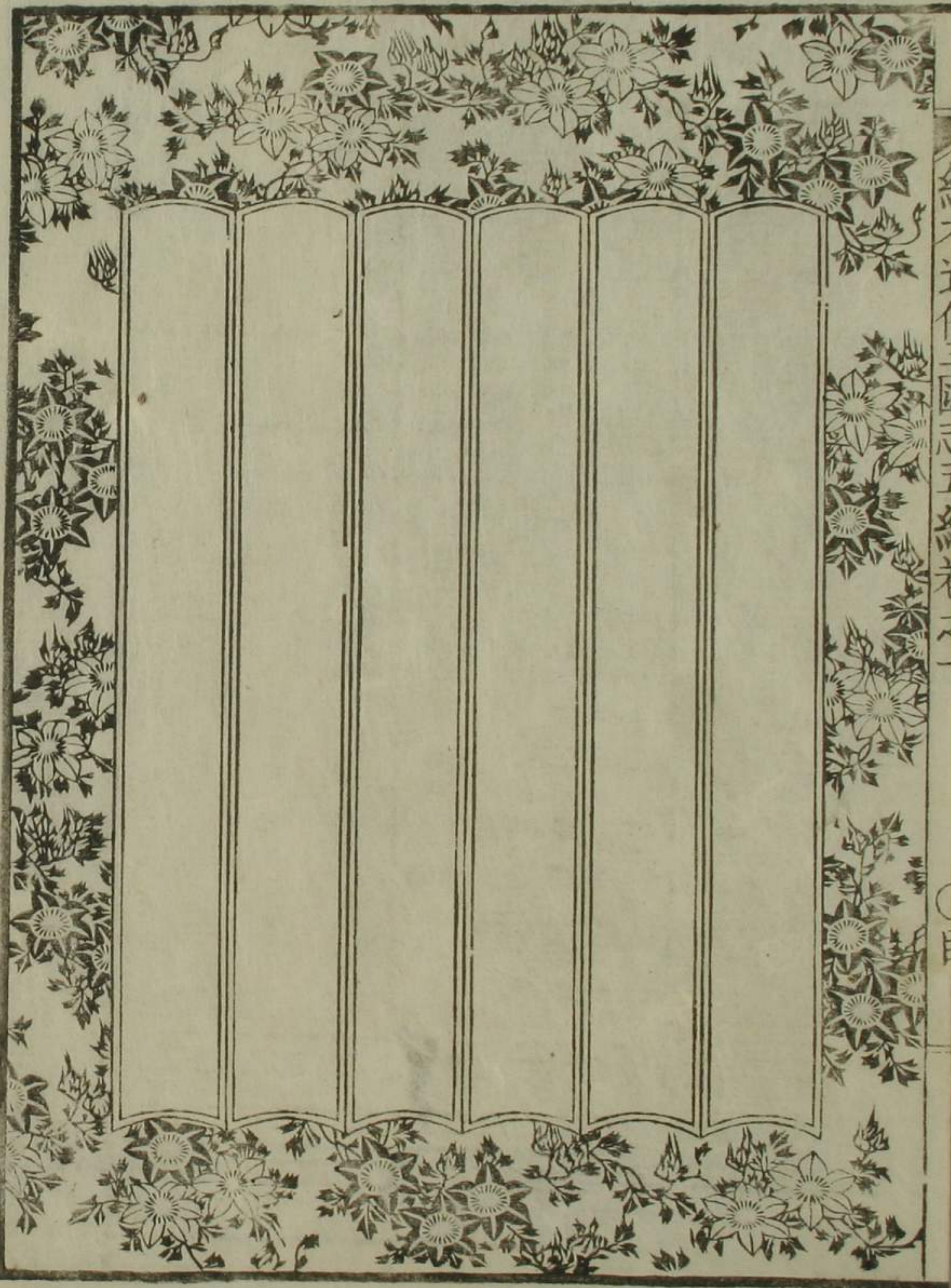
曹子建七步作詩

漢中王怒殺劉封

廢漢帝曹丕奪位

漢中王即皇帝位

繪本通俗三國志五篇卷之十



繪本通俗三國志五編卷之拾

曹子建七步作詩

曹丕そうひとてそと曹操そうそうとてあやむ葬あやむりけむくは華歆かきんが曰いわくそん鄧陵とうりやう侯曹植こうそうちつ章しやうへ軍馬ぐんまと交割かうかくしておま己おのれ本國ほんこくを回り入りまわ臨淄りんし侯曹植こうそうちつ蕭せう懐くわい侯曹熊こうそうゆう二人ふたりへ坐まらしておち父ちちの喪もを走りはしりていそ早くいそ令旨れいしと下くだしてその罪つみを問とひお曹丕そうひとてい従したがひいてま使つかを遣つかひれ六む程ぢやうちひとの使つか回りせう蕭せう懐くわい侯曹熊こうそうゆうへ罪つみをおそわれて自らあ預あめしをありとひけむ曹丕そうひあいく墓らしむとたふ一人ひとりの使つか回りせう臨淄りんし侯曹植こうそうちつへ常とこ下儀げ丁廩ていれんとのみそのをあいひて受し日夜や酒さけを飲のみて喪もをあやむて使いま王わう旨しと傳つたへ到るとの人ひとども端坐ましてさらふ動きあまいて丁儀ぎ大おほい罰り汝ハ女を古と推す

とちうれ昔一先王ありしと云ふが主を立て太子とせんと志た
まひしが詭人阻られ入り。今王薨て。いまだ十日もたぬに罪
を骨肉の問へ何事ぞとす。丁虞へが主の聰明ある筆を下
せば章とあま。ちのけり。王者の大体あり。今反てその位を得ぬ
は。汝ハ庸堂の臣。かたは。肉眼の愚夫。いして聖賢をまると
あま。禽獸と同じきぞと詈り。曹植ハ大に怒りて。武士の命と
て某と乱棒を打生し入り。告げし。曹丕もあま。即時
又許褚とよひ生し。三千余騎の精兵を授け。臨淄へ行て
尽く生捉来と下知をあま。許褚命を受けて飛ぎて。臨
淄の門を守りしものども。四角八方へ斬散し。直に城
中へせ入り。主上の令旨ありと。よがりけし。一人も當りの

ま。そのの。曹植へ丁儀丁廙ホと酒を酔く。倒居たり。は
許褚とよひ。縛りて車にのせ。鄴郡へ送り来り。曹丕怒りて
丁儀丁廙ホと尽く。誅殺しけし。老母卞氏ハの由を
いひ。大におどろき。いひて殿前へ出て。曹丕告て曰く。汝が弟
の曹植ハ平生酒を好んで。酔後ハ疎狂をあま。蓋し。月
中の才と頼んで。女を放逆をあま。汝同胞骨肉の情。あ
ら。一命を助さば。九泉の下にあいて。安く目と塞ん
曹丕曰く。某も深く曹植が才を愛を安んぞ。輕く。其
れを廢せん。その性で戒めんが為。ちり。少も憂ひの。と
ちうれと。乃ち偏殿へ出て。朝せざりけし。華歆きたり。同
て曰く。また母后の生ひ。曹植を廢する。とあられと宣ひ

新編通鑑三國志五續卷之十一
曹植

しよめららむや曹丕が曰く志かり華歆が曰く曹植大なる才を懐
て卒に池中の物よめらむ今若除をもんを後大なる患とあきん
曹丕が曰く又よ巴の母よむらひて必をも廢せどとり入り華歆が
曰く人よ曹植の口を閉け六章とあしりしとやせども臣未
信せむ今あまよ召て才を試も若能もんを殺め人も又その
才を惜しとかりひめり官爵を賤しく天下詩文を傲をの
口を絶塞ぎり曹丕とよむ從ひ曹植とよび寄けよ曹植
怕もかのみき拜伏して罪を請曹丕が曰く汝もなりぬ文才小傲
て常は無礼の行をあま家法とめりてをもりて兄弟國法
とめりてをもりて君臣む先王ありて汝常も文章と
めりて愛せらるるよ深く汝が人を備て作らむむるを疑ふ

今汝も七歩の詩を作らしむは作り得ば命と助むも
克もんを二罪とめり罰せん曹植が曰く福がけを題と
求てまよを作らんを殿上よ一川の画軸をうけ二匹の牛
築地の下よたうひ川の牛井よ落て死したるを画きたまふ
曹丕とよきとさし曰く汝との画とめりて題と詩の中よ二
牛用三牆下二牛墜井死とよホの字を用るとまうれ曹植
とよめり起て七歩しけるがその詩とよめりその詩よ白
く

兩肉齊道行。頭上帶凹骨。相遇由山下。
效起相搪突。二敵不俱到。一肉卧丰蔭。
非是肉不如。盛氣不泄畢。



やよせん孔明練て曰く必だきまらざるべし。乃ち變くと
計り急ちらべくも。變あらん。二人を郡の太守に
封して。そのち生捉り。漢中王とす。併ひ使をのり。乃ち
劉封を綿竹を守ると命ぜらる。乃ち彭義字は未羊と
いふものあり。本より孟達と交厚り。乃ちの計をまひん。
そぎ各間を封して。使を持せ。ひらる。孟達告んとしける
が。その使南の城門より出。馬超が夜巡の兵を生取。馬
超も各間をひらたえて。直に彭義が家へ到け。乃ち彭義
ひ入。酒宴をなす。酒已半。及で馬超言をのりて探て
曰く。御辺初に漢中王。乃ち用ひられ。今へちま。さ
さくありたる。彭義酒を酔て。乃ちけらる。老革懐持。乃ち道に足

△や馬超が曰く。某は深く心は死せしむ。彭義が曰く。御辺も
手下の勢を引て。孟達と外より攻め。乃ち蜀の兵を率
して。内應をなさん。馬超が曰く。御辺の言よく。乃ち合り。
明日計をとて。殺せんとも。相別きて。乃ち漢中王を見へ
右のあひむきと告げ。漢中王大に怒り。即時に彭義を
擒り。獄を下し。拷問し。乃ち彭義獄中より後。無
れども及。孔明を各間を送り。乃ちあまの酒。後無
用の言を吐すと。乃ち本心より出る。乃ち願ひ命を
さく。乃ち云け。乃ち孔明ひらき。乃ちあざ笑ひ。漢中王は
その各間を奏。乃ち漢中王は。乃ち問。乃ち孔明が曰く。乃ち
狂人なり。卒に大なる害をなさん。是より。漢中王を

ち彭義と獄中にて誅し、彭義死し、後孟達去
のりて傳聞て、ちどろひて、膽を冷とあり、勿心ち、使きたり。
劉封を召て、綿竹を守らし、ちのいひけ、孟達も
の外の外、周章し。上庸の都尉申耽、申儀、兄弟とあり、
大のいひをせん、評高を申耽が曰く、某、一の計あり、是禱
を免れ、ち孟達が曰く、願へ、申耽が曰く、我、
兄弟、く、魏に降の、あり、將軍の表を、作、漢中王
に、暇を乞、魏に降りて、事、曹丕、ち、重用ひ、
某兄弟も、共、跡より降、孟達、の義、志、表を
作り、漢中王に、献、別、を、は、夜の五十余騎を、率、
て、魏に降る、劉封、の由、を、付、追、け、討、止、んと、を、

も及む、空く、回、孟達が、使、表、持、て、成都、到、り
け、孟、漢中王、ひ、ら、れ、こ、く、怒、り、匹、夫、と、孟、叛、の、を、
ら、む、文、辞、を、り、て、戲、と、お、ま、と、い、て、孔、明、を、召、寄、
軍、師、を、や、兵、を、起、して、大、の、圍、賊、を、生、取、来、と、宣、べ、孔
明、が、曰、く、無、用、あり、た、劉、封、に、命、ト、て、孟、達、を、討、し、
り、劉、封、の、勝、と、得、り、も、又、一、打、負、り、と、も、必、
成都、を、回、る、と、の、と、た、擒、し、二、の、害、を、除、く、
漢中王、孟、を、従、ひ、綿竹、へ、使、を、遣、し、劉、封、に、命、ト、
劉、封、直、兵、を、發、し、孟、達、を、生、取、と、も、孟、達、も、業、
入、て、魏、に、降、り、け、孟、曹、丕、對、面、し、て、問、て、曰、く、汝、を、
る、詐、を、し、す、や、孟、達、が、曰、く、臣、を、た、關、羽、が、危、き、を、救、

ざる罪より。漢中王怒りて殺さんとす。その人よ來降る。あゝ他の意あはけしや。曹丕いまだ信とせざるを。勿心劉封五萬の勢を率し。襄陽に推寄り。孟達と戦ひて。もて告げし。曹丕曰く。汝の真の降泰さるる。襄陽を行て。劉封が首を取來れ。孟達曰く。臣利害を説べら。ちらむ。兵を動かさずして。劉封を味方と降らしし。曹丕げも。喜び散騎常侍建武將軍平陽亭侯領新。城の太守と封。ト行く。襄陽樊城を守らし。原より徐晃復後尚。二人去の。ありけし。共兵と起して。上庸を攻取し。孟達拜辭して。襄陽に到り。劉封が五十里離。陣を取らる由。き。一通の唇筒を封に。使を仕立て持せ遣。

と。劉封ひらきこる。早く魏に降て。も。と共富貴を受。よ。御辺。且漢中王と父子の約を。あまとり。元。羅侯氏の子あり。魏に事く。旧の羅侯氏の統を。継る人と書たりけし。怒りて。その唇筒を破り。去の賊を。あま。叔姪の義を。あま。又父子の間を。妨げんと。ま。はれ。を。列不忠不孝の人と。あま。その人。と。卒。使の首を。列兵を。あま。出む。孟達も。と。き。大。怒り。一陣。馬を。出。け。劉封大音あけて曰く。國を背く逆賊安んぞ陣前まで。間諜の計を。あま。孟達も。色を。あけて曰く。汝が死せん。と。已。頸の上。臨り。却て。迷。と。省。と。あ。た。る。ぞ。鳥獸。異。あ。ら。ん。や。劉封大に怒り。刀を。ま。へ。馬。を。ま。ど。人。戦。ひ。三。

合あらざる。孟達敗れて走りけむ。劉封よむを追て二
十余里とれた。四方の伏兵あぐく起り。左は夏侯尚。右
は徐晃。喊の声地を動して。三方より攻けむ。劉封許多
討きて。さうく上庸の城を走り。門を閉けとまがりけむ。
矢倉の上より。矢を射と雨のごとく。申耽大音あげて。我を
で。魏を降せり。とよがりけむ。劉封怒めて。城を攻んと
せむ。後より孟達が勢あがりけむ。止るまき力あり。房
陵の城へ走る。あまも魏の旗をさして。申儀矢倉よ立
あらし。旗をのめて。一度はゆる。城の後より。徐晃が軍討
て出たり。劉封よく乱れて。さうぐは走りけむ。魏の大
勢をたすも。追ひ。劉封が五万の勢を。さうぐは百余騎

よ打おされ。成都とさうく逃走り。漢中王よ見く。地う様
伏し。右の趣向を詰りけむ。漢中王よ怒て。曰く。辱子
る人の面目あり。あま来れる。劉封が曰く。叔父の難を
救がふ。某が所為あり。孟達が阻し。よの。漢中
王よよく怒て。曰く。汝も定て。人の食を食ひ。人の衣をきる
べし。なほ土木をのめて。作る人ありとも。魏賊の言を聞く
救がふと。得べけん。劉封涙をちぎて。曰く。一旦孟達よ
利害をのめて。説き。あまの文ある罪を得たり。漢中王猶豫し
て。御心のまご。決せざる。あま孔明ふと。来りけむ。辱子。浩
科を犯す。あまの法をのめて。正をも。まごど。同く。孔明耳
を附て。さうぐは。あまの子。きいめて。今。今除る。あまを。後



漢中王劉封
 関羽と救ふと
 怒りて誅を加ふ



らむ。子孫の禍をあるとやん。漢中王が是をきいて、武士
と下知して、劉封を早く首を斬と宣ひ
その手下の兵を、やうく事の様を伺ひ、孟達降参を
せしむるといふ。劉封書簡を破り、使の首を加へ
從ふとて、一に奏し、はるばる漢中王をこととやめて、きうる
んとあらたなり。その子も罪ありといふども、浩る忠義の
志あり。凜然として、愛をも、堪たりとて、速にやうへ
りんとた。もて首を斬て、持来りけしむ。漢中王大に哭き
とて、輕く候ひて、股肱を廢すと宣へ、孔明が曰く、主
上の國家久遠の計と思ひ、おんぞ、さうして借し足
らぬ大業を建んと、おんも、人となし、あは、女童の病を懐念

漢中王の曰く、後まへたといふが子と殺すことあらんとも、
今日忠義の人を殺すと、志の比、文武の諸臣、これと聞
て、大にぐく涙を流し、ければ、武士奏して、やける。劉
封誅せらるると、悔らく、孟達が勸をきくたて、今
果して、大の難を、受とやころ。漢中王、大にきいて、涙を
おがく、宣く、我が子九泉の下におひて、うさうらず。深き
と恨んとく。日比、関羽が事を嘆き、上におひ、又劉封を
し、みり、食事の進を、卒に病を染り、
廢漢帝曹丕奪位
曹丕、魏王の位を登りて、建安二十五年也。延康元年とわ
らた、復六月、文武の百官を伴ひ、精兵三十万騎を

て沛の譙縣を巡り。先祖の墓を祭りて。榮華を故郷に耀
しけむ。郷の老人道の岐に出て酒を献り高祖沛に飯
をひり例に交す。年の七月に大將軍復疾悼病をこてな
危しと告げし。曹丕速に鄴郡に回りける。叔日以前
已に死したり。曹丕のうら孝を掛て東門の外に殯し。禮
を厚して。さして葬る。とれた八月の間石邑縣に鳳凰來
儀し。臨淄城に麒麟出。鄴郡に黃龍現。と報し。けむ。
曹丕が手下の百官とくく相議して曰く。今上天象を垂是
魏王漢を代りて。天トと治りし。とき瑞兆をいとき。受禪の礼を
調漢帝と勸て。天トと。魏王を禪らし。思し。とれた侍中劉
虞辛毗劉曄尚書令桓階陳矯陳群ホを初として。宗

徒の文武四十余人とあ来て。大尉賈翊相國華歆御史大
夫王朗を見。右の趣きを告げけむ。賈翊笑ひて曰く。諸人
の意見よくもく。合りして。華歆王朗と共に中郎
將李伏太史丞許芝ホを伴ひ内殿に入て。漢の天子を
見へ華歆奏して。けむ。臣伏て。魏王曹丕をさるる位
を登て。より。恩徳を四方に布仁慈よく。万物に及で。古
に超今に騰る。唐虞と父とも。華。うま。と。た。人。羣臣
と。漢の運をを。尺た。て。て。と。の。相議し。陛下の堯
舜に效て。山川社稷をのりて。魏王を禪り。上天の命。主
た。が。ひ。下。の。民。の。意。を。合。ひ。の。ん。と。望。心。然。と。た。へ。陛下
の。が。く。ら。安。閑。し。て。少。も。憂。ひ。へ。ト。ま。は。祖。宗。の。幸。甚。し。

て。万民の大慶をらんとす。帝は是をまへて暫く
その宣をせり。百官と伺ひ哀哭ひて宣ひける。朕
よく高祖三尺の劍を提げて秦を平げ楚を滅して。あらず
又天トて創立し。世統相統て。四百余年傳りしと思
ふ。朕また不才をば。又大なる惡逆をば。あさきて。安ぞ。祖
宗の大業をば。等閑に棄る。まのびん。汝もろくの臣再びよ
く公計を議せよ。華歆をば。李伏許芝をば。引て御前
近く進み。陛下の信。ト。まふ。ばん。まの二人。よく伺ひて奏
す。と。れ。李伏。許芝。魏王位。即てより。麒麟。生。鳳凰。来
り。黃龍。現。ト。嘉禾。瑞草。甘露。の奇祥。尽く。數。が。たり。是。天
象。を。聖。て。魏。ま。さ。漢。の。禪。を。受。ま。す。示。を。ま。の。許。芝。奏。し

く曰く臣亦司天の職を掌り。夜天文を考視。火漢乃氣
數已み尽て。陛下の帝星光を隱して。明あらざる。魏王の乾
象。天を極め。地を際る。言とのりて伸がたり。殊まの讖文。ま
鬼。辺。ありて。委。相。連。る。當。漢。代。る。言。東。ありて。
午。西。あり。兩。日。並。び。光。して。上。下。移。る。と。の。り。ま。の。事。の。り
て。論。む。ると。れ。へ。陛。下。早。く。位。を。禪。め。鬼。辺。ありて。委。あ。ひ
連。る。へ。乃。ち。魏。の。字。あり。言。東。ありて。午。西。あり。と。へ。乃
ち。許。の。字。あり。兩。日。並。び。光。と。乃。ち。昌。の。字。あり。ま。の。魏
許。昌。ありて。漢。の。禪。を。受。ま。す。の。象。あり。願。く。陛。下。よく。察
し。の。帝。宣。け。る。へ。祥。瑞。讖。文。を。ま。れ。款。の。虚。説。あり。安。ぞ
輕。く。万。世。不。朽。の。基。を。捨。べ。け。と。や。華。歆。又。曰。く。陛。下。大

又差とり。昔一三皇五帝。徳せり。以て相譲り。徳を承ふ。徳あるを譲る。されしより。三皇より。以来。も。お子孫。傳へ。徳を譲ぜざれば。桀。紂。に至りて。天下。も。こと。誅。を。天下。一人の天下。あり。乃ち。天下。の。人の。天下。あり。陛下。を。退。で。徳ある。人。を。譲。之。遅。と。たへ。変。と。生。ぜ。し。王。朗。又。奏。して。曰。く。古より。以来。興。と。あり。必。と。亡。と。あり。成。盛。ある。と。あり。れ。ば。衰。と。あり。あ。不。亡。の。國。不。敗。の。家。あり。し。や。漢。朝。相。傳。て。四。百。余。年。い。は。氣。運。と。盡。たり。自。ら。迷。と。執。く。禍。を。ま。ね。き。り。帝。痛。く。哭。て。後。殿。へ。逃。入。り。ひ。け。し。べ。百。官。も。大。に。笑。く。退。き。次。の。日。又。尺。く。朝。を。集。り。内。官。も。命。と。帝。と。精。下。出。ま。し。む。る。帝。怕。と。て。出。ま。へ。ざ。り。け。し。べ。

曹皇后問て曰く。今百官も。陛下。を。朝。に。請。て。政。を。問。ふ。と。何。ゆ。え。出。ま。へ。ざる。帝。御。涙。を。あ。ぐ。く。宣。ひ。け。る。へ。汝。が。兄。も。位。を。奪。ふ。為。も。百。官。と。し。て。逼。ら。し。む。朕。の。人。の。朝。も。出。ま。し。曹。皇。后。怒。り。て。曰。く。汝。が。兄。も。國。を。奪。逆。賊。あり。と。す。汝。が。漢。の。高。祖。と。い。ひ。し。も。本。と。豊。沛。の。一。匹。夫。な。か。強。を。頼。で。秦。の。天。下。を。奪。ひ。取。り。も。父。の。四。海。を。掃。ひ。平。げ。て。も。兄。も。志。ま。り。大。功。あり。さ。ん。ぞ。帝。位。も。即。ち。あ。ま。き。汝。位。も。登。り。て。已。に。三。十。余。年。し。も。父。を。得。ま。ん。を。早。く。微。塵。う。せ。ら。る。と。罵。り。車。を。乘。て。出。し。も。帝。い。よ。く。愕。ひ。て。急。ぎ。御。衣。を。あ。ら。し。と。り。て。前。殿。も。出。ま。し。ひ。け。し。ば。華。歎。奏。し。て。曰。く。陛下。早。く。臣。が。諫。ま。し。り。て。禍。も。遭。と。と。免。れ。ぬ。帝。哭。

て宣ひけるは汝は漢の祿と食と年久し。殊に功臣の子孫ある中のみ。吾として朕が憂て分るもの。独もあきぞ。華歆が曰く。陛下も。天下を魏王の禪めしむ。且又ある禍あらん。臣もあてて陛下に忠をまゐらざる。帝宣ひけるは。難ら朕の禍をどうものあらん。華歆が曰く。天下の人をどく。陛下。下。人君の福を。四海の大乱。及。上。志。魏王の朝。あらざる。陛下を殺すもの。公庭に満塞らる。陛下を及。恩とありて。徳を報ずること。知りて。天下の人。尽く。陛下を伐ん。帝の宣く。昔。桀。紂。無道。して。生民を。残暴。せしむ。天下の人。尽く。天子を。誅。せり。朕は位に即てより。三千余年。兢兢。業。として。嘗て。非禮。の。こと。を行。さ。天下の人。な。

朕を伐む志のびん。華歆大に怒り。色をあらげ。曰く。陛下徳をく。福をく。して。自ら帝位に居る。人へ。桀。紂。が。残暴。あり。其。甚。と。ぞ。と。帝。怖。と。あ。と。き。袖。を。拂。て。起。り。人。を。王。朗。ま。の。と。華。歆。目。加。せ。と。り。華。歆。走。り。寄。り。御。衣。の。袖。を。引。止。色。を。変。じ。て。や。け。る。へ。陛下の御心。許。と。と。許。と。と。と。早く一言。の。心。で。決。し。て。帝。怖。れ。戦。ひ。て。答。へ。と。あ。た。い。さ。る。不。忽。ち。曹。洪。曹。休。二。人。劍。を。帶。て。殿。の。ち。り。符。寶。郎。へ。何。と。あ。る。と。問。け。し。べ。二。人。と。と。出。て。曰。く。符。寶。郎。さ。ら。ぬ。の。曹。洪。劍。を。抜。て。玉。璽。符。寶。を。求。め。ん。と。し。け。れ。ば。符。寶。郎。祖。弼。言。り。怒。り。て。や。け。る。へ。玉。璽。符。寶。を。あ。へ。ち。天子の室。あり。安。ん。ぞ。汝。も。と。し。曹。洪。大。に。怒。り。武。士。を。命。じ。と。祖。



弼と外に引出し。首を斬り。棄てりけり。帝大にあせれ
り。階下に。武を魏の勢甲と着て。持て百人あはせり
たる。とて。御涙血をそぎ。祖宗の天下。ちんぞ期せん
い。一旦に廢せん。朕九泉の下に死し。ちん。の面目ありて
先帝を見。のべきと。哭き。乃ち群臣。ひひ。宣ひける
の。朕願く。天下。の。魏王。に。禪り。ん。安く。一期。と暮さ。ば
幸あら。ん。賈翹。が。曰く。臣。安ん。ぞ。あて。陛下。に。負ん。陸
下。の。詔。と。降し。て。万人。の。んと。安ん。ん。帝。御涙。さ
み。止ら。ぬ。即ち。桓楷。陳群。に。命。し。て。禪國。の。詔。と。作し。ち
華歆。を。使。と。し。玉璽。と。さ。げ。て。百官。と。共。に。魏王。宮。に。行。り
曹丕。に。讓。り。と。し。と。せ。ら。る。曹丕。大。に。よろ。ま。び。披。て。と。と。讀。み

その詔を曰く。

朕在位三十二年。遭天下之蕩覆。幸賴祖宗之靈。危
而復存。然今仰瞻天文。俯察民心。炎精之數。既終
行運在予。曹氏是以前王。既樹神武之績。今王又
光耀明德。以應其期。是曆數昭明。信可知矣。夫大
道之行。天下為公。賢與能。故唐堯不私於廢子。而
名播於無窮。朕義而慕焉。今其追踵堯典。禪位與
丞相魏王。無得辭焉。
曹丕見了。即ち禪を受んとし。けり。司馬懿。諫て曰。主
上。輕々。し。志。の。あ。己。に。詔。あり。て。玉璽。と。禪。を。へ。と。い。ん。ど。も
表。上。り。再。三。讓。辭。し。て。天下。の。人。の。務。を。免。れ。り。曹丕。よ

曹丕見了。即ち禪を受んとし。けり。司馬懿。諫て曰。主

れま志とらび王朗の表を作らせ王奎を返し献りけり帝の表をきくゆひの表を白く

臣不謹奉受詔伏惟陛下以垂世之詔禪無功之臣使臣聞知肝膽摧裂不知所措切以亮讓大位於賢東由避跡後世稱之臣才鮮德薄安敢奉命請於盛世別求大賢以禮讓之庶免万年之議論也臣不謹納還空綬待死闕下不勝惶懼戰慄之至奉表以聞

帝表と獻覽ありて御心疑ひ群臣と顧く魏王禪を受むといふときと問ひ人ば華歆奏して曰く陛下いま唐堯乃聖の效ありとをいひしより帝宜ひけるへ如何あるゆへ人ば華

歆が曰く昔唐堯二人の御女あり娥皇女英といへり位を舜と禪りども舜さらし受りへざりて卒に二人の御女を妻と後帝位を禪りたりと云ふより今世までも大聖人の徳と称と陛下さいひふ二人の御女あり唐堯さらし魏王を妻せりといふ家帝たはよりて已をばむと桓楷の詔を作らせ高唐使張音を勅使として二人の御女を車にのせ王奎をさげけて魏王宮にいこらしめり曹丕詔を披きとるふその文を白く

惟延康元年十月己酉皇帝詔曰咨再魏王上昏讓讓朕切為深道陵遲為日已久幸賴武王操德膺符運奮揚神武艾夷克暴清定區夏今王丕續美

前緒至德光昭吉教被四海仁風扇鬼區天之歷
數實在再躬昔虞舜有大功二十而放勳禪以天
下大禹有疏導之績而重華禪以帝位漢高祖運
有傳聖之義加順靈祇紹天明命釐降二女以嬪
于魏使行御史大夫張音持節奉皇帝璽綬永
為人君萬國敬仰天威允執其中天祿永終敬
之哉

曹丕見了て大まよるまび密に賈翹に問て曰く今二度詔を
受との人ども孤を位を奪りと人の砂汰せんとて恐る
る賈翹が曰くたゞそれゆゑ易きとあり再び王璽を返
て堅く辞しひちるま華歆に命どく一山の墓を作らしめ受

禪臺と名付て吉日と扱び大小の百官四夷八方の人をあ
はち天子みまごころ玉璽とささげて天トと主上と禪ら
る智者の務と塞ぎの曹丕志のあべいと喜び又表
てたてまのりて玉璽を回す張音内裡に入り魏王受むと
奏しけしと帝群臣に問て宣ひける魏王受むといふせ
△華歆が曰く陛下一山の墓を築き受禪臺と名付て
公卿庶民をあはち明白に位と讓り人志々あつた陛下の
子々孫々あぐく魏の恩と被りる帝はとて従ひ太
常院官に命どく地と繁陽にトせしめ三重の高き臺と
まの十月庚午の日寅のときと扱んで帝をあはち曹丕
と臺の上と請どるま玉璽とささげて位と禪の人を大

小の官人四百余員御林虎賁の軍勢三十余万をば匈奴
單于化外の人とてく墓下をのめする帝位を禪て冊文
と號するを方人ひびきぬは是をきくその文を曰く

次曰再魏王昔者唐堯禪位於虞舜舜亦以命禹天命
不於常惟敏有德漢道陵遲世失其序降及朕躬
大亂滋甚昏羣先恣逆宇內顛覆賴武王神武拯茲
難於四方惟清區夏以保綏我宗廟豈予一人獲
又得九服實受其賜今王欽承前緒光于乃德
恢文武之大業昭爾考之弘烈皇靈降瑞人神告
徵誕惟亮采師錫朕命命曰爾度克以於虞舜
用率我唐典敬遜爾位於戲天之曆數在爾躬元

執其中天祿永終君其祗順大禮饗食萬國以肅秉
天命

曹丕八般の大禮を受く卒に帝の位を登けし賈翊大
小の百官を引く尽く墓下を朝せし延康元年を
あらとて黄初元年と号し國を大魏と号して曹丕自
官人を命どく天下を大赦を行し父曹操を太祖
武德皇帝と謚しけし賈詡曰く天を二川の日ちく
民を二りの王なり己を帝位に即りひぬと早く劉氏を
何のそへも移しぬとと献帝を引下し奉り墓の下を
ひきぬせけし賈翊曰く公卿を封どく即日を行し
曹丕をれはち献帝を山陽公に封どけし賈詡

劍とて。吉と功ありて曰く一帝と立く一帝と廢する。古の常例。今上の仁慈汝を殺さず志のひりをも封じて山陽とす。今日を山陽に行詔し。召をせんべらち。都に入る。とあら。獻帝御涙せ。あへり。を拜謝して馬を打乘。とて。去り。人。を。人。哭。す。とのめ。の。は。曹丕群臣と顧。舜禹のの朕。され。と。る。とのひ。けれ。群臣。を。三。曹丕。と。あ。天。地。と。拜。せ。と。と。あ。の。心。然。と。と。一。陣。の。風。吹。起。り。石。を。飛。し。石。を。走。ら。し。む。る。と。雨。より。も。急。し。て。前後。俄。に。暗。く。咫尺。の内。も。も。分。が。と。墓。上。の。燭。火。と。と。滅。け。と。曹丕。と。と。倒。れ。と。地。は。昏。絶。と。人。扶。け。て。宮。

中に入とけれを半時をかりしと生四五日へ朝を生る。とあ。病の少し瘥ると侍。華歆と司徒と封。王朗と司空と封。ト。尽く百官を賞と施。亦鳥駕のり。許昌より洛陽。宮殿を營。ける。

漢中王即皇帝位

漢中王の成都あり。曹丕が漢の天子と殺し奉り。のり。大魏皇帝と成。た。と。と。ま。の。ひ。大。と。と。日。夜。い。なく。哭。ま。の。ひ。飲。食。と。の。進。を。百。官。に。命。と。と。孝。を。け。と。と。遥。に。許。昌。と。望。ん。で。祭。と。と。孝。愍。皇。帝。と。謚。し。是。より。病。に。染。で。事。を。理。し。と。と。一。切。の。政。務。を。皆。孔。明。に。委。せ。る。の。次。の。年。辛。丑。春。三。月。襄。陽。に。張。嘉。と。



會天通作三國志五經卷之十



張嘉

漢張嘉
 夜網と裏
 投ど
 玉聖
 得る

繪本通作三國志五經卷之十

三十一

漢公羽あり。ある夜襄江に出く。漢とさるる水の底
 より。一道の光起りく。直に天漢と侵しけし。綱をあげ
 て。それを捕ふ。乃ち一の玉をて得たり。あやんでよくく
 んる。金光燦爛とて。瑞気盤旋し。上は八字あり。
 受命于天。既壽永昌と篆字して刻し。けし。切は
 ぞ。きあめり。傳國の玉をさらん。漢中王の仁徳とて。天
 下をわんで。漢の統とて。継のたし。とて。献らむ。やと
 のひ密に成都へ入く。孔明もたてまゐる。孔明もたりあり
 喜び重く恩賞とあてて。玉を収め。大傳許靖光祿
 大夫雒周もあめり。あめり。とて。議し。けし。雒周が曰く。
 近比祥風慶雲空中より下り。成都の西北の角に黄氣

枝十丈あり。宵に沖る。帝星畢胃昂の分を現し。煌々と
 し。月のど。と。漢中王の帝位を即く。漢の正統と
 継のたし。瑞光あり。今又玉をを得。とあめり。天の賜あり。
 するの疑ふなき。孔明も。と。大小の官人を伴はひ。
 漢中王を精く。帝位を即く。人とさむ。その表を曰く。
 臣亮等言。近者曹丕篡殺。湮滅漢室。竊據神器。劫
 迫忠良。酷刑無道。人鬼忿毒。咸思劉氏。今上無天
 子。海内惶々。靡所式仰。群下前後上書者八百余人。
 咸称述符瑞圖讖。明徵聞黃龍現。武陽赤水。九
 日乃去。孝經授神契。曰德至淵泉。則黃龍現者。
 君之象也。易乾九五。飛龍在天。大王當龍登帝位。

也。近有襄陽張嘉特送玉璽。潜漢水伏於淵泉。暉景燭耀靈光。徹天夫漢者。高祖本所起。定天下之國号也。大王襲先帝軌跡。亦興於漢中也。今天子至。壘神光先現。壘土襄陽漢水之末。明大王兼其下流。授與大王。以天子之位。瑞命符應。非人力所致。昔日有赤烏白魚之瑞。咸曰休哉。二祖受命。圖書先著。以為徵應。今上天告祥群儒英俊並進。河洛孔子讖記咸悉俱至。伏為大王出自孝景皇帝中山靖王之曾本支百世。乾祇降祚。聖女碩茂。神武在躬。仁懷德積。愛入好士。是以四海感心。焉者省靈圖。啟發緯。繡神明之表。名諱昭著。宜即帝位。以續二祖。紹嗣昭穆。天

下幸甚。

漢中王。乃曰。夫。大。又。愕。其。汝。亦。有。事。不。忠。不。孝。の。人。と。為。と。名。の。も。ろ。う。と。宣。ひ。け。し。と。バ。孔。明。奏。し。く。曰。く。曹。丕。ご。も。あ。ん。自。ら。ま。さ。く。帝。と。あ。る。況。や。主。上。へ。漢。室。の。苗。衣。尚。と。い。う。然。ら。む。と。い。ふ。の。あ。ら。ん。漢。中。王。色。を。変。じ。と。く。宣。ひ。け。し。と。バ。一。あ。ま。運。賊。の。所。為。と。交。ん。や。と。く。袖。を。拂。て。後。宮。に。入。り。ひ。け。れ。ば。百。官。も。亦。退。出。す。と。三。日。を。た。て。後。孔。明。又。百。官。を。引。て。朝。に。出。ま。と。ぐ。く。漢。中。王。の。前。に。拜。伏。し。許。靖。奏。し。く。曰。く。今。漢。の。天。子。已。に。曹。丕。に。弑。され。り。主。上。の。帝。位。に。即。て。師。を。起。し。ま。の。仇。を。報。ぐ。の。へ。ご。ん。を。ま。れ。不。忠。不。孝。の。人。あり。今。蜀。中。の。民。を。主。上。と。天子。と。し。く。漢。帝。の。御。為。の。恨。を。雪。ん。と。を。の。す。と。

主上より従ひぬらざるをたへたは民の望と失ふあり願ふはよく
察し之漢中王宣ひけるは景帝の子孫ありとの念も
涿郡の一村夫あり。普天の下率土の濱りて一の徳沢を
施さざ。今若し何れ帝位を登らば必も篡弑の名を得ず
ととたひ死とも不忠不孝のついでせど汝もこれを勸て必も
万歳の惡名を取らむとあられ謀官再三諫むとの念も漢
中王卒に許應しぬらけり孔明一の計を定む密
に百官と相議しぬらけり病重といひて生ざりけり漢中王
の由とまきぬ孔明が家を行く自ら床の辺にいり軍師
いふ病ぞと問ぬ孔明答て曰く心憂て焚が如し命
も已に旦夕あり漢中王大に驚き如何なる病ぞと再三とい

ぬらども孔明目を塞ぎ病重しとをうらひしく更まふとぞ
漢中王を以て問ふ孔明嘆て曰く臣は草廬
に生くるより主上に従ふ今いふ計をまむ必も用ひ
らば己に巴蜀の地を取ら臣が夙昔の言に負む今主上は事
る文武の官人百官を主上を君としてとの官爵を身
に受光を先祖の耀さんとむらむ主上は拒んぬ
受らぬとぞとの人百官を怨む含んで外に去らんとする意
ありも百官尽く散る吳魏の敵攻来らばいづれ拒む
臣との人憂ふ沈む漢中王の曰く堅く従ふぞと
あらむと天の人の義論を思れり孔明曰く古より名不
正則言不順言不順則事不成とあり今主上名正く言順と



會本通谷三國志五續卷之十



會本通谷三國志五續卷之十

(三五)

廢備宜修之嗣武二祖躬行天罰備雖無德懼天帝位
 於庶民外及赤夷君長命曰天命不可以不答祖業不可
 以久替四海不可以無主率土式望在備一人備畏天命
 又懼漢室將洩於地程狀元日典百僚登壇以受皇帝
 玺綬修藩瘞告類於天神推神饗食祚於漢家永綏四海
 漢中王王尔王受之壇上之天子之四面之天子之謙之劉備也
 才德也才德也才德也人受之受之受之宣之孔明奏之
 曰主上四海之平定之功德天下昭著之況也夫大漢
 之宗親也之正位也即之今已也天也告之祭之
 又之又之謙之文武之百官之也之萬歲之
 之持舞禮之章武元年之改元之國之大蜀之号之吳

氏を立て。皇后と。長子劉禪を太子とし。次の子劉永を魯
 王とし。三子劉理を梁王とし。孔明を丞相とし。許靖を司徒とし。
 大小の官人尽く封賞ありて。天ト大赦を行へり。


繪本通俗三國志五編卷之拾大尾

新刊通鑑三國志五經卷之十

繪本三國志六編十卷 近日出版

帳中の大旨蜀帝大小呈を憎んぐ兵を起し条をきし
張飛陣中小酔身を害し蜀帝孤を孔明に託し
孔明神計を以て孟獲を六回放らし七回擒し又
姜維が智勇を見し一挙小伏せし魏の司馬仲達を
孔明と智を戦せし孔明度く仲達を驚し子の數条
既く大半刻成不日矣先づ看客競を繕らしん支を希し

皇都

池田東籬主人悠校正 

東武

葛飾戴斗畫 

浪速

内山蟻窟書

京師

井上治兵衛

和漢 西洋 書 籍 賣 捌 處

大阪心齋橋博勞町角

群玉堂河内屋 岡田茂兵衛

